議題２-①

# 子どもの育成に関わる主な取組みについて

1. 安心して産み育てられるまちづくり

(1)アフタースクール事業の状況

こどもホットスペースづくり、わくわく遊び隊

平成 31 年 4 月 26 日
健康福祉部子育て支援課
教育部生涯学習課

# 塩竈アフタースクール事業について

塩竈アフタースクール事業は、国の地方創生推進交付金を活用して、放課後に子どもにとって魅力的な事業を提供し、時代を担う子どもの育成を図る本市独自の事業です。平成２９年度から、放課後等の子どもの居場所づくりに取り組んでいます。

| 福祉的な事業<br>こどもほっとスペース | |
|---|---|
| 内容 | 子どもが安心して過ごすことが出来る居場所（子ども食堂など） |
| 対象 | 小学生 |
| 会場 | 学校外（集会所、公園など） |
| 主管課 | 健康福祉部子育て支援課 |

| 教育的な事業<br>わくわく遊び隊 | |
|---|---|
| 内容 | 走る、跳ぶ、投げるなどの運動や伝承遊びなどの体験活動 |
| 対象 | 小学１年生～３年生 |
| 会場 | 学校内（校庭、体育館など） |
| 主管課 | 教育部生涯学習課 |

| その他の放課後等の市の取組 | |
|---|---|
| 福祉的な事業<br>○放課後児童クラブ（仲よしクラブ）<br>対象：小学生<br>○子どもの学習支援事業<br>対象：中高生 | 教育的な事業<br>○学び支援コーディネーター等配置事業<br>対象：小学生<br>○サマースクール<br>対象：小中学生<br>○チャレンジ教室<br>対象：中学生 |

# こどもほっとスペースづくり支援プログラムについて

## １．こどもほっとスペースとは

・子どもたちが放課後等の時間に、“ほっと”安心して過ごすことができる居場所をつくることを目指しています

・地域の方が、地域の子どもを見守り育てるまちづくりを目指しています
居場所は地域の方々や団体が立ち上げて運営します

・食事や学習・遊び等をとおした地域の方々との交流により、子どもの孤立防止や健康・生活習慣の向上を図ります

## ２．平成３０年度のこどもほっとスペース

**１．清水沢東子どもカフェ**
**（えぜるプロジェクト）**
活動場所：清水沢東住宅集会所
（月見ヶ丘小学区）
活動実績：毎週月曜　放課後
36 回の実施（7～12 月）
平均 17 名の児童が参加
内容：宿題、おやつ、読み聞かせ　等

**２．がまっこぷれーぱーく**
**（遊びの◎わ がまっこぷれーぱーく）**
活動場所：中の島公園、みなと公園
中の島二又集会所
（三小学区）
活動実績：月１回土曜または日曜
１３回の実施（7～12 月）
平均２０名の児童が参加
内容：公園での自由遊び　等

**３．塩釜自然体験「あそびにおいで」**
**（牛生町子ども会）**
活動場所：牛生集会所、三小体育館
津波防災センター
（三小学区）
活動実績：月１・２回土曜または日曜
１０回の実施（8～１１月）
平均１０名の児童が参加
内容：防災キャンプ、ハゼ釣り　等

4．塩竈の自然と文化に根差した
子どもの多世代交流と学びの
居場所作り
（浦戸桂島復興連絡協議会）
活動場所：雲上寺、浦戸桂島
（全学区児童を対象）
活動実績：日曜、冬期休業日
６回の実施（１１～１月）
平均１０名の児童が参加
内容：工作、料理、浦戸散策　等

5．こども食堂 in 塩釜
（塩釜ライオンズクラブ）
活動場所：仙塩丘の上管理事務所
（月見ヶ丘小学区）
活動実績：月１回金曜　放課後
３回の実施（１０～１２月）
平均３０名の児童が参加
内容：子ども食堂

6．虹のこどもカフェ
（虹のこどもカフェ）
活動場所：Café 虹
（一小学区）
活動実績：毎週月・水・木曜　放課後
２１回の実施（１１～１月）
平均５名の児童が参加
内容：軽食の提供、宿題　等

7．子ども食堂 SANTA
（子ども食堂 SANTA）
活動場所：インドカレーSANTA
（全学区児童を対象）
活動実績：月１回水曜　夕方
４回の実施（１１～１月）
全体で 15 名の児童が参加
内容：子ども食堂

## ３．平成３０年度の本市の取組

新たな担い手の発掘・育成や活動団体のサポートを、NPO 法人アスイクに業務委託して行いました。

（１）居場所づくりの担い手発掘・育成

①講演会の実施

子どもの居場所づくりに関心のある方を対象とした講演会を４月に実施

②勉強会

子どもの居場所に関心がある方を対象に、担い手発掘のための勉強会を４回実施

③ほっとトークカフェ

子育て世代の母親等を対象に、子どもの居場所についての意見交換会を２回実施

④助成団体の活動報告会の実施

助成団体のこれまでの取組を発表する活動報告会を３月に実施

（２）居場所づくりを行う団体のサポート

①助成金の交付

７団体に合計１，８２５，０００円の助成金を交付

②助成団体の研修会の実施

活動するにあたって必要なノウハウを提供（全体研修会９回、個別研修４回）

平成 30 年 4 月 21 日開催　講演会

## ４．今年度の取組

（１）事業のPR活動

こどもほっとスペースの情報を、広報誌やホームページ等を活用して市民に周知します

（２）居場所づくりを行う団体のサポート

①相談業務

居場所づくりを行う団体の活動上の課題の相談の受け付け、対応を行います

また、新たに居場所づくりを行いたい方の立ち上げまでのサポートを行います

②助成金の交付

居場所づくりを行う団体に対して助成金を交付し、経済的支援を行います

【対象事業】市内小学生を中心として、学校外における放課後・休日・長期休業中の子どもの居場所づくりを行う事業

原則として、２ヶ月に１回以上、かつ１回あたり１時間３０分以上の活動

【助成対象期間】交付決定後から２０２０年３月末まで

【申請受付期間】２０１９年４月から１１月末まで

【助成金額】全体予算４００万円（１０団体程度への交付を予定）

| | 上限額 | 助成割合 |
|---|---|---|
| こどもほっとスペースづくりを今年度から開始する団体 | １団体につき４０万円 | 助成対象経費の５分の４以下 |
| こどもほっとスペースづくりを既に行っている団体 | １団体につき３０万円 | |

令和元年度の取組み

# 塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）について

## １．平成３０年度の実施状況

小学校の放課後に、運動要素を取り入れたレクリエーション活動等を行うわくわく遊び隊は、平成２８年度に玉川小学校を会場に開始され、平成２９年度からは市内６校へ拡大して実施しています。活動は小学校毎に組織した各校わくわく遊び隊運営委員会が主催者となり行っています。

なお、全体の実施統括及び支援業務を塩釜市体育協会に委託しており、各校運営委員会、体協、教育委員会が緊密に連携して実施しています。

### （１）実施状況

１）主　　催　運営委員会（各校 PTA 役員、指導講師、会場校、体育協会等で構成）

２）実施内容　ｻｰｷｯﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝｹﾞｰﾑ ﾎﾞｰﾙ運動 各種ﾘﾚｰ ﾄﾞｯｼﾞﾎﾞｰﾙ 鬼ごっこ等

３）会　　場　所属小学校の校庭及び体育館

４）指導講師等　指導講師は表の通り。加えて各校 PTA、ボランティアグループ、町内会の方々等が指導支援員や見守り隊として、児童の出欠確認や活動日誌の記載、整列補助、安全見守り等を行って活動を支えました。全体で、18 人の指導講師、34 人の指導支援員が参画しました。

| 会場 | 児童数 | 期間 | 回数 | 指導講師所属団体 |
|---|---|---|---|---|
| 一小 | ３３人 | 6月～2月 | ２２ | 体協、塩釜 FC、還暦野球 |
| 二小 | ３５人 | 6月～2月 | ２０ | 体協、ｱﾄﾑ体操教室、二小ｿﾆｯｸ、市ﾊﾞｽｹ協 |
| 三小 | ３７人 | 6月～2月 | ２１ | 体協、市ﾊﾞｽｹ協会、三小 PTA |
| 月小 | ４４人 | 6月～2月 | ２３ | スポーツ推進委員、体協、塩釜 FC |
| 杉小 | ４６人 | 6月～2月 | ２２ | 体協、塩釜 FC、市ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ協会 |
| 玉小 | ７１人 | 6月～2月 | ２３ | スポーツ推進委員、体協、塩釜 FC |

## ２．令和元年度の実施予定

### （１）活動開始までの準備及び実施予定

指導講師の確保及び地域と学校との連携等に留意し、各校通年で実施していきます。

| 時　　期 | 項　　目 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 4月 | 学校協議 | 日程確認等 |
| 5月 | ６校各運営委員会の開催 | 指導講師、日程、実施内容、活動費、募集方法等の決定　募集開始 |
| 6月～32年2月 | わくわく遊び隊 | 活動実施 |

### （２）課題への取組み

ア．指導者研修会の実施

・わくわく遊び隊の活動が、子どもたちの発達段階を踏まえて的確に行われるよう、指導者全体の資質向上を図る指導者研修会を前年度に引き続き開催していきます。

イ．指導支援員等の更なる確保に向けて

・わくわく遊び隊の充実した活動を安全、安心に行うためには、指導講師に加えて活動を補助するスタッフの参加が不可欠です。このため、わくわく遊び隊参加児童の保護者等に、活動内容の周知チラシの配布、活動参観日の開催、親子でできる活動メニューの実施などを通して参加を働きかけていきます。

# 塩竈市アフタースクール事業

# わくわく遊び隊

## みんなで遊んで元気アップ！

### 実施校

**第一小学校**
**第二小学校**
**第三小学校**
**月見ヶ丘小学校**
**杉の入小学校**
**玉川小学校**

**跳ぶ**

**投げる**

**走る**

## 発育期にある子どもの身体活動は大変重要です

### 保護者の声

- 毎日楽しみに参加している
- 友達と遊ぶようになった
- 身体が丈夫になった
- 学校内での活動なので安心している
- わくわく遊び隊の日は元気に登校し、帰ってきてから、おもしろかったと報告してくれる

### スタッフの声

- 各校ともまとまりが出来て、ぶつかったり転んだりの怪我もなくなった
- 様々な運動やゲーム、遊びも積極的に取り組むようになった
- 暑さ寒さをもろともせず、元気に活動している
- ３年生がリーダーとなり、話を聞く態度や友達を思いやる気持ちが出てきた

### 事務局の声

- 市内６校、年間 20 回位の計画で実施ししています。今年もよろしくお願いします。

# わくわく遊び隊とは？

運動要素を取り入れたレクリエーション活動及び地域文化や地場産業などの体験型学習活動を行い、放課後の安心安全な場所を作ることが目的です。
専門の指導者がお子様の体力・運動能力や興味関心に見合ったプログラムを作成し実施するので、無理なく安全に活動できます。

## 活動プログラム

これまで実施した内容を紹介します！

### 走る

- 鬼ごっこ
- リレー
- ラダー

### 投げる

- フリスビー
- キャッチボール
- 大玉投げ

### 跳ぶ

- 跳び箱
- ジャンプ
- マット運動
- 縄跳び

### ゲーム

- ドッジボール
- サッカー
- バスケットボール
- 綱引き
- アジャタ

### 伝承活動

- コマ回し
- 紙飛行機づくり
- お手玉

### その他に

- 体協主催の五色綱引き・アジャタ競技会に参加したほか、杉の入小学校では特別授業として太極拳なども実施しました

発　行）・塩竈市内小学校わくわく遊び隊運営委員会
事務局）・ＮＰＯ法人 塩釜市体育協会 わくわく係　　０２２-３６２-１０１０

**今年度（H31）は５月中旬に学校ごとに募集します**

# 「塩竈アフタースクール事業」に関する評価まとめ

塩竈アフタースクール事業として行った「こどもほっとスペースづくり支援プログラム」及び「わくわく遊び隊」の効果や課題等を検証することを目的に、①小学生の保護者を対象としたアンケート調査②事業受託業者・運営委員会・助成団体を対象としたアンケート調査を実施しました。

アンケート調査結果から得られた子どもの居場所についての現状・課題とともに、事業の効果や課題について整理しました。

## 1　アンケートの概要

（1）保護者を対象としたアンケート調査（保護者調査）

■調査対象者　塩竈市内の小学校７校全児童の保護者２，３５１人
■調査期間　平成３１年２月４日～２月１５日（１２日間）
■調査方法　学校配布・学校回収
■回収状況　回収数２，０６３人（回収率８７．７％）
■調査内容　お子さんの放課後の現在の過ごし方と今後の希望について
こどもほっとスペース・わくわく遊び隊について（認知度、利用状況等）

（2）事業受託業者・助成団体・運営委員会を対象としたアンケート調査（関係団体調査）

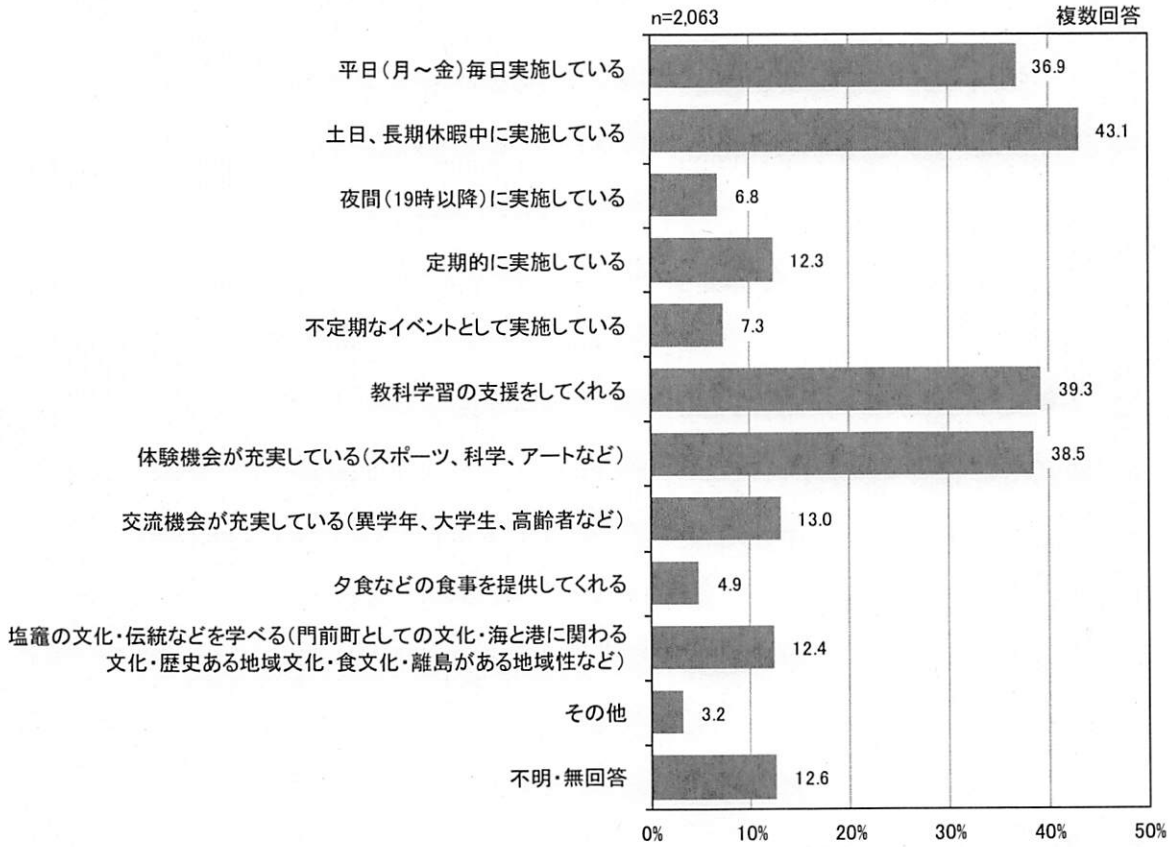
■調査対象者　下記一覧の事業者・団体
■調査期間　平成３１年２月１２日～２０日（９日間）
■調査方法　電子メール・FAX・郵送のいずれかの手段にて配布・回収
■回収状況　すべての団体・事業者等から改修（回収率１００％）
■調査内容　（事業受託者）業務上での工夫、居場所づくりの課題等
（助成団体・運営委員会）運営する上での工夫、課題等

【事業者・団体】

| | 区分 | 活動場所・活動名 |
|---|---|---|
| こどもほっとスペースづくり支援プログラム | 事業受託業者 | ＮＰＯ法人　アスイク |
| | 助成団体 | 清水沢東こどもカフェ |
| | | がまっこぷれーぱーく |
| | | 算数で遊ぼうの会（H29 のみの活動団体） |
| | | 塩竈の自然と文化に根差した子どもの多世代交流と学びの居場所作り |
| | | 塩釜自然体験「あそびにおいで」 |
| | | こども食堂 in 塩竈 |
| | | 虹のこどもカフェ |
| | | こども食堂 SANTA |
| 「わくわく遊び隊」 | 事業受託業者 | ＮＰＯ法人　塩釜市体育協会（以下「体協」） |
| | 運営委員会 | 第一小学校（以下「一小」） |
| | | 第二小学校（以下「二小」） |
| | | 第三小学校（以下「三小」） |
| | | 月見ヶ丘小学校（以下「月見小」） |
| | | 杉の入小学校（以下「杉小」） |
| | | 玉川小学校（以下「玉小」） |

## 2　子どもの多様な居場所が必要となる背景について

●母親、父親ともに就労している割合が高くなっています（７割強。）
●世帯所得の最多層は「300～500 万円未満」で、300 万円未満が約２割を占めています。
●配偶者のいない家庭が１割強となっています。
●子どもが１週間（21 食）のうち、一人で食事をする回数について、１回以上ある割合が全体で 8.4%、６年生では 18.4%となっています。
●今後、充実してほしい居場所については、「土日、長期休暇中に実施している」（43.1%）が最多、次いで「教科学習の支援をしてくれる」（39.3%）、「体験機会が充実している（スポーツ、科学、アートなど）」（38.5%）となっています。また、「夜間（19 時以降）に実施している」（6.8%）や「夕食などの食事を提供してくれる」（4.9%）などのニーズも一定数見られます。



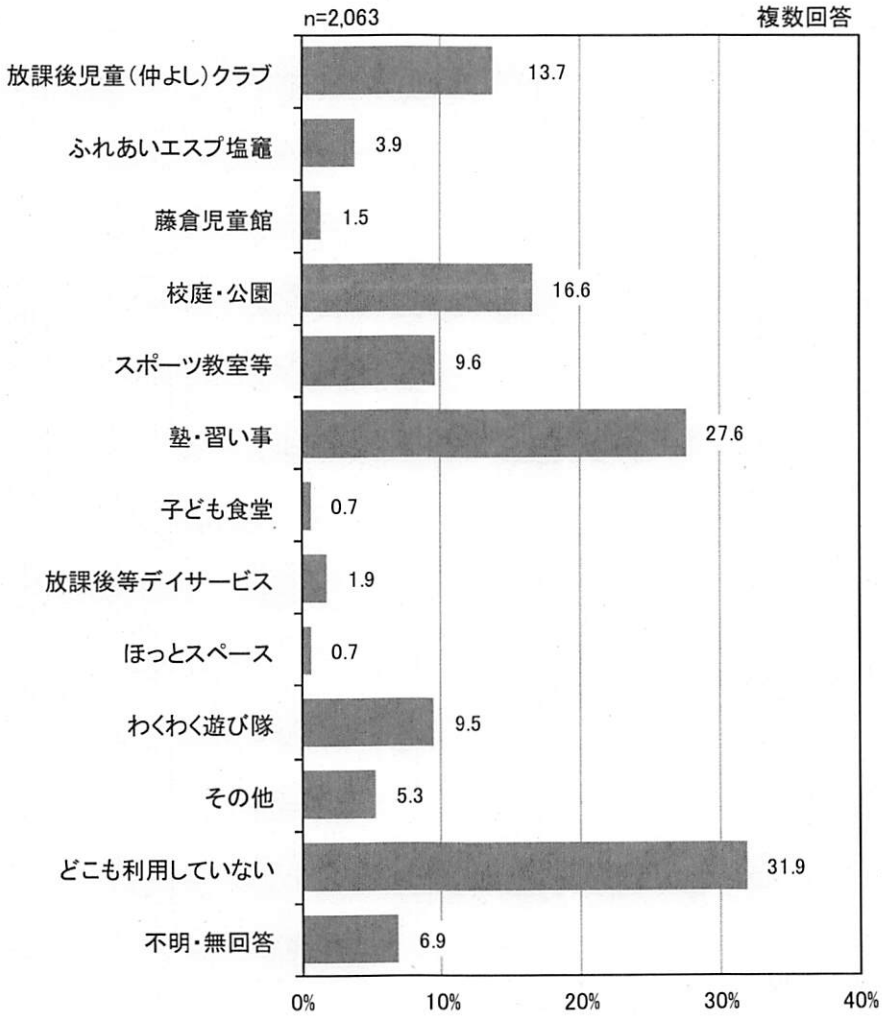

（保護者の自由記述より）

○安心して子育てする為にも、夜間や日曜、祝日の居場所作りに、もっと力を入れてほしいです。保護者の心の余裕が子どもの育ちに大きく影響すると思います。

★平日、土日、長期休暇、夜間など、保護者の多様な就労形態に応じて、安心して預けられる居場所の確保が必要となっています。
★「学習支援」や「スポーツ体験」など多様なニーズを想定した居場所の確保が求められています。

## 3　子どもの居場所の現状について

●児童が現在、定期的に利用している放課後の居場所については、「塾・習い事」（27.6%）、「校庭・公園」（16.6%）、「放課後児童（仲よし）クラブ」（13.7）が上位に挙がっています。一方、「どこも利用していない」（31.9%）が最上位となっています。




●放課後の居場所を利用していない理由として、「どこにどのような居場所があるのか情報がない」（14.6%）、「家計面で余裕がない」（13.7%）、「仕事などが忙しくて居場所を探している余裕がない」（7.4%）なども少なくありません。

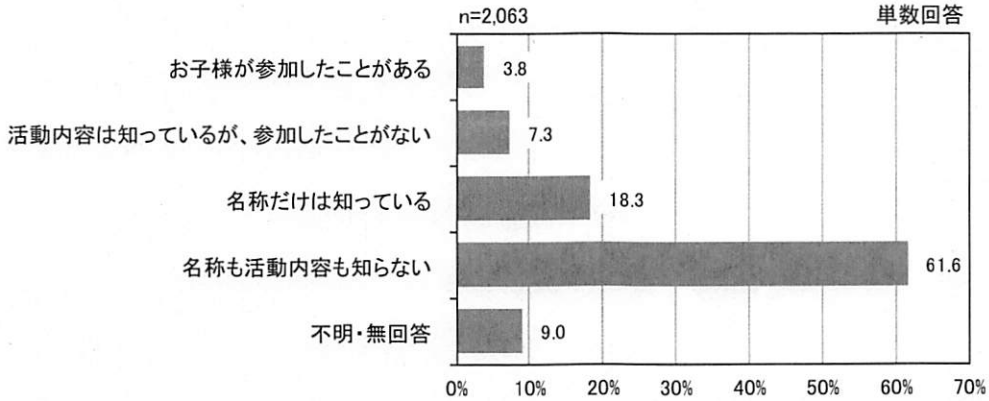
★保護者の経済的問題、多忙、情報不足などによって、理想とする子どもの居場所が確保できないケースも少なくないことがうかがえます。

## 4　「Shiogama こどもほっとスペースづくり支援プログラム」について

### （1）「ほっとスペース」の認知・利用・活動状況

●子どもの居場所づくりに関する「勉強会」、「ほっとトークカフェ」について知っていたかについては、「名称も内容も知らない」（73.7%）、「名称だけは知っている」（14.8%）、「内容は知っているが、参加したことがない」（8.2%）となっています。

●「ほっとスペース」を知っていたかについては、「お子様が参加したことがある」（3.8%）、「活動内容は知っているが、参加したことがない」（7.3%）、「名称だけは知っている」（18.3%）、「名称も活動内容も知らない」（61.6%）となっています。




●「ほっとスペース」をどのようにして知ったかについては、「学校からのチラシ」（46.2%）、「お子様からの情報」（23.1%）、「他の保護者からの情報」（14.1%）となっています。

●利用したことのある「ほっとスペース」については、「清水沢東こどもカフェ」（42.3%）、「虹のこどもカフェ」（19.2%）、「がまっこぷれーぱーく」（12.8%）となっています。またひと月当たりの利用頻度についてみると、「１回」（61.3%）が最多となっています。利用者の満足度については、「満足」（68.3%）、「やや満足」（15.9%）と、高い満足度となっています。

●安心して子どもを預けることができたかについては、「できた」（79.5%）、「どちらともいえない」（16.7%）、「できなかった」（0.0%）となっています。

（保護者の自由記述より）

○ほっとスペースについて、学区外のものには、交通の面や安全の面で参加させられない。

○学校から近い場所ならもっと参加出来る人が増えると思います。

○学校なら、１人でも行けるので安心です。

○不審者情報もあり、放課後の過ごし方に留意が必要だと感じています。

★「ほっとスペース」の認知度、利用頻度は必ずしも高くありませんが、利用者の満足度は高くなっています。

★活動の周知経路として「学校」が重要な役割を果たしていることから、今後一層、学校との連携を強めていくことが課題です。

★安全面や利便性から学校の近くを希望する意見が多く挙がっていることから、活動場所の決定に際して配慮していくことも課題です。

★概ね、安心して預けることができているとの評価が得られていますが、今後も一層の安全への対策、配慮が必要です。

（2）「ほっとスペース」への参加による変化

●子どもに変化があったかについては、「あった」（21.8%）、「わからない」（66.7%）となっています。

●子どもの変化については、「自分で野菜を切ったりしたがる。」「積極的になった。」「友達が増えた。」「前より外で遊ぶのが好きになった。」「一人で参加出来、自信が持てた様子。」「楽しみにしている。」「いきいきしていた。」などが挙がっています。

●スタッフ・地域の変化については「どんどん子どもたちがかわいくなってきて、お休みした子どもがいると心配するようになった。」「メニュー考案や準備等、自分が出来る事を考えて次回に繋がるような行動になった。」「繰り返し開催することで、通りがかりの年配の方が立ち止まったりお話する機会も少しずつだが増えて、皆さんから応援の言葉をいただけた。」などが挙がっています。

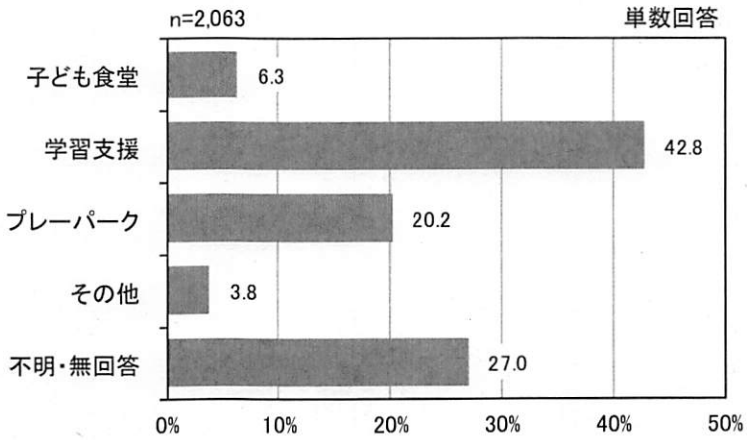
★「ほっとスペース」に参加して、２割強が、子どもの精神面や交友関係に良好な変化があったとしています。

★「ほっとスペース」の活動を通じて、スタッフや地域の方々にも、子どもへの関心の高まりや、活動への理解の向上など、良好な変化が見られました。

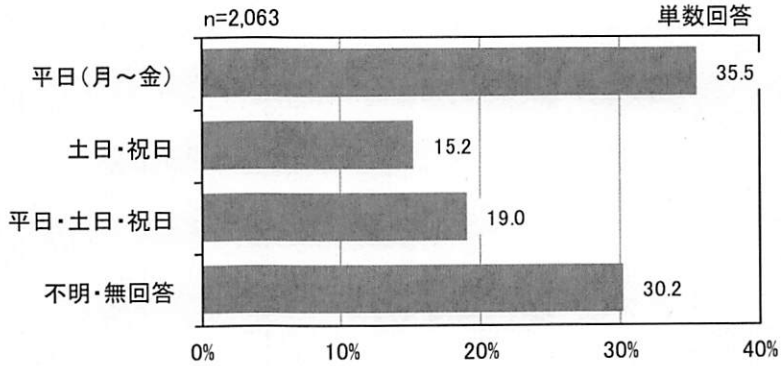
（3）今後の活動への参加意向

●今後、最も利用したい居場所の種類については、「学習支援」（42.8%）、「プレーパーク」（20.2%）、「子ども食堂」（6.3%）となっています。また、今後最も利用したい曜日については、「平日（月～金）」（35.5%）、「平日・土日・祝日」（19.0%）、「土日・祝日」（15.2%）となっています。

【種類】




【曜日】




●今後、最も利用したい居場所の種類でその他については、「子どもカフェ」「さまざまな運動を体験させてくれるところ」「国際交流、異文化交流等」「子ども食堂、学習支援、プレーパークが合わさって、日によって選べるような場所」などが挙がっています。

●次年度、ボランティアとして協力いただけるかについては、「できない」（58.3%）、「わからない」（23.9%）、「できる」（0.8%）となっています。

★今後利用したい種類については、「学習支援」や「プレーパーク」を中心に、「子ども食堂」、「子どもカフェ」「日によって選べるような場所」など、多種にわたる利用意向が見られます。

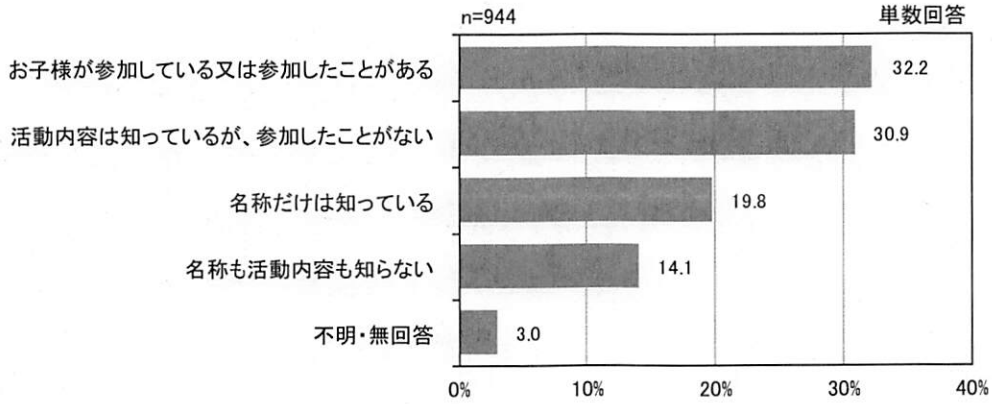
★今後利用したい曜日については、平日だけでなく、土日・祝日においても一定の利用意向が見られます。

★現在事業を利用中の保護者については、ボランティアとしての協力が難しい状況ですが、子どもの成長とともに、協力を得られる可能性もうかがえます。

## 5　「わくわく遊び隊」について

### （1）「わくわく遊び隊」の認知・利用・活動状況

●認知状況について、わくわく遊び隊で対象としている１～３年生を見ると、「お子様が参加している又は参加したことがある」（32.2%）、「活動内容は知っているが、参加したことがない」（30.9%）、「名称だけは知っている」（19.8%）、「名称も活動内容も知らない」（14.1%）となっています。




●どのようにして知ったかについては、「学校からのチラシ」（86.3%）、「お子様からの情報」（8.3%）、「学校の先生からの情報」（2.6%）となっています。

●参加した理由については、「運動・スポーツの内容だったから」（69.1%）、「放課後の活動だから」（51.2%）、「子どもの体力を上げたかったから」（41.7%）となっています。

●場所の設定については、「よい」（99.5%）、「変えてほしい」（0.2%）となっています。

●内容の設定については、「適切であった」（89.6%）、「違う内容も入れてほしい」（7.1%）となっています。

●参加した頻度については、「ほぼ毎回参加した」（81.4%）、「休むこともあったが参加が多かった」（12.0%）、「参加より休むことが多かった」（3.5%）となっています。

●安心してお子様を預けることができたかについては、「できた」（88.7%）、「どちらともいえない」（6.1%）、「できなかった」（1.2%）となっています。

●実施するなかで、課題となったことについては、「子どもたちをまとめること」「支援員の十分な確保」「発足当初のスタッフ不足」「指導が難しい子どもへの対応」などが挙がっています。

（保護者の自由記述より）

○行きたい時に行ける場所として開放して欲しい。

○わくわく遊び隊は良い取組みと思いますし、参加して良かったです。難点を挙げるなら、３年生までということと、一年を通しての回数がもっと多かったら、と思いました。

（関係団体の自由記述より）

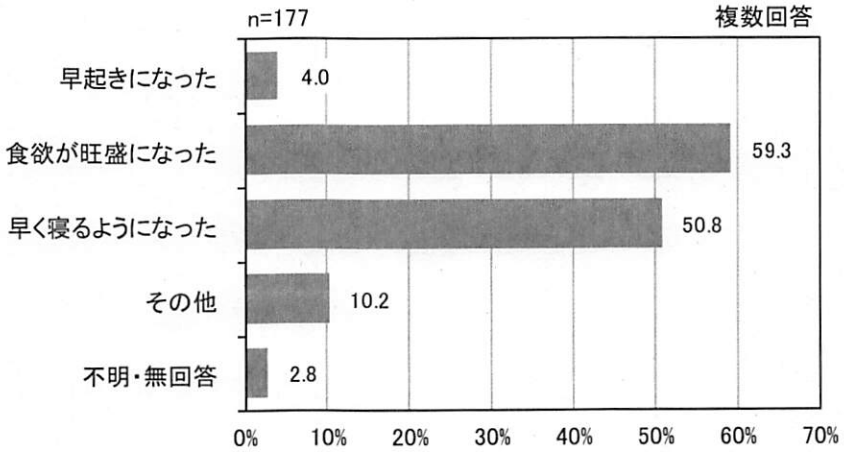
○各校の現ＰＴＡ以外の地域の方々の協力・支援が得られると思っていたが、平日の午後の活動という縛りがあり、現実には難しかった。そこで、各学校の現ＰＴＡ会員に声掛けを行った結果、協力を得られるようになった。各校とも、ＰＴＡ会長に運営委員会の会長を担っていただき実施することができた。

★「わくわく遊び隊」の認知度については、保護者の約半数が活動内容を理解しています。
★活動の周知経路として「学校」が重要な役割を果たしていることから、今後一層、学校との連携を強めていくことが課題です。
★活動場所、活動内容については、概ねの満足を得られています。
★活動への参加頻度については、概ね毎回の参加を得られており、実施回数を増やして欲しいとの意見も挙がっています。
★安心して預けることができたかについては、概ねできているとの評価が得られていますが、今後も一層の安全への対策、配慮が必要です。
★活動の初期段階は課題が集中する傾向にあることから、市と教育委員会を中心に、柔軟かつ迅速に援助・助言が行える環境づくりが求められます。

（2）「わくわく遊び隊」への参加による変化

●生活習慣に変化があったかについては、「わからない」（55.9%）、「多少はあった」（37.3%）、「大いにあった」（4.5%）となっています。

●変化した生活習慣については、「食欲が旺盛になった」（59.3%）、「早く寝るようになった」（50.8%）、「早起きになった」（4.0%）となっています。




●身体面や精神面に成長が見られたかについては、「思う」（53.3%）、「思わない」（36.3%）となっています。

●見られた成長については、「身体が丈夫になった」（47.3%）、「友達とよく遊ぶようになった」（42.5%）、「友達を思いやる気持ちが出てきた」（19.9%）となっています。

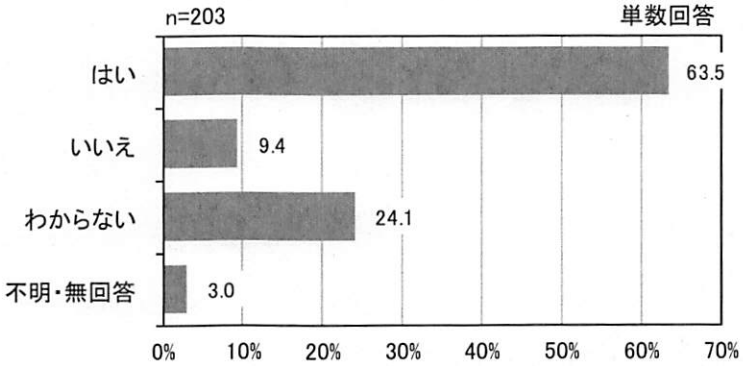
（関係団体の自由記述より）

○子どもたちには、生活習慣に好ましい変化があった（早寝早起き、食欲など）。また、運動面、精神面で好ましい変化があった（体を動かすことが好きになった、けがをしなくなった、頑張れるようになった、友だちと遊ぶようになった、など）。地域住民には、子どもの活動を見守ったり、一緒に活動することで今の子どもの実状を知る事ができた。また、子どもたちから元気をもらえるとともに、地域や大人の役割を演じることができた。

★「わくわく遊び隊」に参加して、多くの方が、生活習慣に良好な変化があったとしています。また、身体（運動）面、精神面の成長も見られたとの回答が多くなっています。

（3）今後の活動への参加意向

●今後も続けてわくわく遊び隊に参加したいかについては、「はい」（63.5%）、「わからない」（24.1%）、「いいえ」（9.4%）となっています。




●次年度「見守り隊」として協力いただけるかについては、「できない」（63.8%）、「わからない」（23.9%）、「できる」（1.5%）となっています。

（保護者の自由記述より）

○自分の子どもが小学生のうちはお手伝いできないので、ボランティアの方々には感謝します。

○わくわく遊び隊のような体を動かす内容で、放課後学校で参加できる、４年生以上の活動があると嬉しいです。

○何かわくわく遊び隊みたいな所があるならば、たくさん増やして、みんなで通えたら楽しいと思います。

○放課後、学校が遠いので公園などでも、わくわく遊び隊みたいなことをしてくれると、ランドセルを置いて、公園に行くと思います。

★今後も「わくわく遊び隊」への参加意向は高くなっています。

★現在事業を利用中の保護者については、「見守り隊」への協力が難しい状況ですが、子どもの成長とともに、協力を得られる可能性もうかがえます。

★学校で実施されることが安心感につながっていますが、安全を確保しながら、公園など身近なオープンスペースで、同様の活動が展開されることも望まれています。

## 6　「アフタースクール事業」の効果・今後の実施に向けて

●アフタースクール事業によって、子どもが一人でいる時間（留守番等）が減ったと感じるかについては、「かなり減った」（5.7%）、「少し減った」（9.0%）、「変わらない」（27.5%）、「わからない」（40.2%）となっています。学年別にみると、１年生、２年生で『減った』がそれぞれ２割強となっています。

（保護者の自由記述より）

○子どもを１人で留守番させる機会を減らせるのはとても助かります。

○「放課後の学び支援の時間」とわくわく遊び隊が、ゆるくいっしょになったような場所を平日毎日提供してほしい。

○子どもの勉強時間を自宅で確保するのが難しい面もあるので、学校側、地域側での支援があれば、積極的に参加をさせたいと思う。

○子どもの放課後の居場所づくりはとても良い事業だと思うが、他の学区の取組みが良いと思っても（子ども食堂など）足がなく、参加させることができない。また、本当に自分の子どもが参加できるかよく分からないし、子どもも知らない所へ１人では行きたがらないので、結局利用することはなかった。

（関係団体の自由記述より）

○今後「わくわく遊び隊」を継続する上で、行政にしかできない支援については、「資金援助（統括・地域コーディネーターの確保）」「学校・地域との橋渡しと連携強化」「事務局としての指導・助言」といった事項が挙げられています。

○今後「ほっとスペース」を継続する上で、行政にしかできない支援については、「資金助成」「後援、協力など活動の信頼性を高める後方支援」「学校や公園、公共施設へのつなぎ」「場所の提供」「広報の協力」といった事項が挙げられています。

★アフタースクール事業の実施によって、子どもが一人でいる時間は着実に減少していると感じられています。

★参加意向があっても、アクセスの問題や情報不足などで参加に至らなかった方も見られます。

★アフタースクール事業への利用者の評価は高く、今後の展開に期待が持たれています。その中で、保護者の多様な就労形態への考慮や多様な希望メニューへの対応、安心して利用しやすい場の確保をはじめとする諸課題に対して、これまで以上に学校や地域との連携を図りながら、取組みを進めていくことが求められます。